

発達障がいでなんだろう？④

LD（学習障がい）

※SLD（限局性学習症）とも呼ばれます。

脳機能のタイプによって、聞く、話す、読む、書く、計算する
または推論する力に困難を示す状態です。

ここに挙げたのものは、主な特性です。これらすべてが見られるわけではなく、個人差があります。
また、医学的には「読む」「書く」「計算する（推論する）」の3つを診断上取り扱うことが多いです。

読む

- ・文字がたどり読みになる。
- ・形が似た文字や漢字を読み間違える。
- ・促音（そくおん）や拗音（ようおん）を読み間違える。
- 例：「がっこう」を「がこう」など
- ・漢字をなかなか覚えられない。
- ・音読はできてても内容理解が乏しい。

書く

- ・字の形や大きさが整いにくい。
- ・書くのが遅い。
- ・聞いたことを正確に書けない。
- ・筆順がバラバラになりやすい。
- ・細かい部分の書き誤りがある。
- ・助詞が正しく使えない。
- ・作文が苦手である（漢字を使わない、内容が乏しい）。

計算する（推論する）

- ・暗算ができない（指を使って計算する）。
- ・繰り上がりや繰り下がりのある計算が苦手である。
- ・文章題を解くのが難しい。
- ・時計を読むことが苦手。
- ・図形の理解が乏しい。
- ・単位（m等）が理解できない。

かかわりの一例

LDは脳機能のタイプにより学習につまずきが出ている状態であり、努力不足など本人の問題ではありません。よって、子どもの得意・不得意（脳のはたらき）を理解してかかわることが大切です。そのためには、短所特訓型よりも「長所活用型」の支援が効果的です。

あなたはA、Bのどちらが分かりやすいですか？

(1) 時計は・・・ A: デジタル派 B: アナログ派

(2) 道案内は・・・ A: 音声（ことば）で行き方を順番に伝えてもらう

B: 地図で全体を見ながら現在地を踏まえて伝えてもらう

(3) 物を組み立てる時は・・・ A: 説明書の手順通りに B: 完成品を見ながら



(A) 「1つ1つの情報を順序よく処理していく」「聞いて処理していく」方が得意かもしれません。

- ・筆順や文字の書き始め、書き終わりに注目して伝える。
- ・やるべき手順を番号付けして示す。
- ・文章は文節毎にスラッシュを入れて読む。
- ・語呂合わせや歌（ことば）にして覚える。
- ・文字の特徴を言語化する。声に出して聞いて覚えていく。

(B) 「まず全体を押さえて、部分的な情報に注目し処理していく」「見て処理していく」方が得意かもしれません。

- ・絵や写真を用いて、文字や漢字の意味をイメージしやすいようにする
- ・筆順にこだわらず、全体的な形がおおむね合って書けていればOKとする。
- ・文章を読む際には間違えやすい部分を色付けする。読む場所を指でなぞる。
- ・見本を写しながら覚える。



相談先

〒811-0124

福岡県糟屋郡新宮町新宮東2丁目5番1号

新宮町子ども家庭センターはぐうる（シーオーレ新宮内）

TEL(092-963-2995) 月～金 8:30-17:00

